



ふれあい通信

2023/5/12 第17号
(一社) 熊本県労働者福祉協議会



五月雨に新緑が一段と色鮮やかになってきましたが、皆さんゴールデンウィーク如何お過ごしだったでしょうか。行楽地では、コロナ前の賑わいを見せたところもあり、マスコミ各社では、高速道路の渋滞状況も報道されていました。

2020年1月に国内で初めて新型コロナウイルス感染症が確認されてから3年。5月8日からは感染法上の2類から5類に移行しました。毎日掲載されていた全国の感染者数の発表もなくなり、全国5,000機関の定点調査結果が週1回公表されるとのことで、飲食店等のパーティションも撤去され、社会経済活動も回復していくものと思われま

す。「緊急事態宣言」「まん延防止等重点措置」などなど、聞きなれない言葉とともに、この3年間私たちの生活は翻弄されてきました。元首相が発した「全国一斉休校」には、学校現場も私たちも本当にびっくりしました。この政治判断が、将来どのように評価されるのかわかりませんが、子どもたちの学校生活は、「隣のクラスの人顔もしらん」「運動会もなか」「修学旅行もなか」、入学式、卒業式もあり方が変更されてきました。子を持つ親は、仕事はあるが、子どもを見てくれる人がいないと困惑されていました。コロナに翻弄されたのは、皆同じですが、思い出づくりが出来なかった子どもたちの思いは、今どうでしょうか。

まだまだ、感染のリスクはゼロではありません。重篤になる率も高いとされていますし、後遺症についても解決されたものではありません。

これからコロナと共存しながら、アフターコロナの日常となります。しかし、新たな感染症の発生もあるかもしれません。その時のために、この3年間をしっかりと検証して、次に備えなければと思いますし、時の政権は、今回の移行について国民に丁寧な説明をすべきではないかと思います。

コロナ禍では、人それぞれの考え方、価値観の相違もありましたが、皆経験したことのない3年間であったことは間違いありません。

表題横の絵は、労福協のマスコットキャラクター「きょうちゃん」です。仲間とコミュニケーションをかわし、チームワークがよく人と関わるのが好きです。県労福協としても、色々な場面で活用できればと思っています。宜しくお願いいたします。

さて、今月号のひと言コーナーから、各地区労福協から寄稿いただくこととしました。まずは、荒尾玉名・鹿本地区労福協 勢田事務局長から多忙な中寄稿いただきました。広範囲にわたる地域において、会員の皆さんと労働者福祉運動にご尽力いただいています。

是非ご一読いただき、荒尾玉名・鹿本地区労福協の取り組みを知っていただき、各々の活動の参考にしていただければと思います。

【1】ひと言コーナー

荒玉・鹿本地区労福協事務局長の勢田です。

本地区労福協の構成は、荒尾市・玉名市・玉名郡・山鹿市・旧植木町にある15産別42単組の約7千名と荒尾・玉名・山鹿のろうきん友の会の約1千名です。

事務所は、山鹿市鹿校通の「山鹿勤労福祉会館」〈市営墓地公園の敷地〉にあるので静かな雰囲気です。

6つの柱を設定して活動を展開しています。

- (1) 組織運営を円滑にするため、四役会・幹事会を充実する。
- (2) 地区内の退職者の会（OB・OG）・労金友の会などと交流をする。
- (3) 福祉事業体への協力を積極的に進め、各種イベントを開催する。
- (4) 研修会・学習会を開催し、人材（次世代）育成を図る。
- (5) 自治体（首長）との懇談会・各種要請活動を展開する。
- (6) 共助拡大や利用促進に努める。

＜特徴ある活動ー1＞

3.11 東日本大震災復興を支援する「福幸の会」と称して、東北の魚介類や日本酒をお取り寄せし、それを食べる・飲む経済活動を10年間続けてきた。1回に費やす金額は、20万円を予算化していた。それぞれの料理に舌鼓を打ち、キャンドル点火やハーモニカ演奏によるご冥福と紙飛行機による復興を祈念したイベントも同時に開催した。（写真参照）



<特徴ある活動ー2>

老若男女による「グラウンドゴルフ大会」を開催。これまでの「ビーチバレーボール大会」「室内パタンク大会」は、新型コロナウイルス感染症のため4年間中止をしたが、屋外スポーツということで開催した。

これまでお年寄りのスポーツだと思っていたが、先輩諸氏の指導により楽しくできた。そして、世代間交流もばっちりできることを確認している。

(写真参照)



<特徴ある活動ー3>

3.11の東日本大震災や熊本地震、県南地域の豪雨災害など自然災害が急増している。そこで、これまでの「福幸の会」を私たち自身の災害時の予防や避難行動など含めて「防災ボランティア研修会」を開催している。

1回目は、地元の防災士より、避難場所でのトイレ対策の実演をした。

2回目は、豚汁の炊き出し訓練と防災士による講話を聴いた。(写真参照)



【2】中央労福協活動コーナー

《継続でご案内いたします》

生活・就労応援基金（ろうふくエール基金）について改めてお知らせいたします。身近なところで、コロナ禍で苦しむ方々を支援している団体等に是非ご紹介ください。

基金の目的

基金を呼び水として、地方労福協が軸となり労働組合・協同組合・市民団体等とともに、コロナ禍で苦しむ人たちに対する生活・就労支援活動を地域で促進することを後押しする。この取り組みを通じ、組合員・市民の共感を広げ、労働者福祉運動の役割発揮につなげる。

■就労支援、職業訓練、雇用創出、居住支援などの事業への助成

熊本県労福協が対応できるものは以下の支援Bです。

・支援対象B

コロナ禍に対する生活や就労の支援を目的として、地方労福協が実施もしくは関与する事業や活動。

例えば、各地域で事業団体が行う学生生活支援・フードバンク事業・子ども食堂事業等との連携、民間団体・NPO等が行う困窮家庭等への支援活動との連携など。

- ・「関与する」とは、一緒に活動すること、事業・活動に共感し寄付を集めること、事業・活動を応援、推薦、紹介すること等を含む。
- ・コロナ禍対応に特化した事業・活動だけではなく、就労支援、職業訓練、雇用創出、居住支援などを行うなかでコロナ禍対応を行っている事業・活動も対象となる。

・助成額

1団体の助成上限額 **支援対象B 20万円**

ご 報 告

熊本県労福協が2023年1月27日助成申請をしまして、「**シンママ熊本応援団**」へ中央労福協「ろうふくエール基金」からの助成が、5月8日開催された中央労福協第6回幹事会で承認されました。支援対象区分は上記の支援対象Bに該当します。事業内容につきまして、以下のとおりです。

なお、贈呈式を5月24日（水）開催する県労福協第12回通常総会時に行います。

ろうふくエール基金 200,000円 熊本県労福協 80,000円贈呈

事業内容

熊本地震以降、さらにはコロナ禍で勤務先の休業、廃業等により収入が断たれ生活に困窮しているシングルマザーたちの生活支援の一環として安心して暮らし子どもたちが学習できる環境の醸成を図るために食料提供等の支援活動を継続して実施している。月1回70世帯にしあわせBOX」として団体、個人からの提供品を配布している。

中央労福協 全国研究集会

- (1) 日時 2023年6月9日(金)～10日(土)
- (2) 場所 愛媛県松山市
- (3) テーマとコンセプト

Beyond Generations 新しいつながりに向けたスタートライン 「結果重視からプロセス重視へ」、「集団から個へ」、「画一性から多様性へ」、昭和から平成、令和へと時代が変わりゆく中で、私たち社会を取り巻く「価値観」は大きく変化 した。そして令和の幕開けとともに訪れたパンデミックは DX を急速に進展させ、また 2025 年にはデジタルネイティブやソーシャルネイティブと言われる Z 世代が生産年齢 人口の半数を占める時代が到来する。私たちはいま加速度的に変化を続ける時代に生きている。2030 年の国連 SDGs の達成、労福協の 2030 年ビジョンの実現に向け、私たちは新しい 視点を持ち、今まで接点のなかった層へとつながりを広げていく必要がある。2022 静岡 では「若者を知る、若者の目線に立って」をキーワードに、若者たちの持つ感性、価値 観、考え方や生き方にふれた。2023 年はこの学びをさらに深掘りして若者への解像度を 上げていくとともに、同じ時代を生きている者同士が世代を超えてつながり合い、社会 や地域の課題に取り組む実践者たちをゲストに招き、若者を基軸にさらに世代間の連 携・協同の可能性について考察する。

【3】南部労福協活動コーナー

今後の予定

- (1) 「労働運動・労働者福祉運動の理念・歴史・リーダー養成講座」

- ①開催日時 2023年8月25日(金)14時30分～26日(土)12時00分
- ②開催場所
ANA クラウンプラザホテル熊本ニュースカイ
- ③開催趣旨

中央労福協は1949年に結成され、当初からイデオロギーや考え方の違い、組織の枠を超え、福祉の充実と生活の向上をめざすという事で連携・連帯をし、労働組合・生活協同組合・労働者福祉事業団体の力を結集することを明確な指針としてきました。そして、すべての働く人の幸せと豊かさをめざして、連帯・協同で安心・共生の福祉社会をつくることを労福協の理念として大切に継承し堅持しています。併せて、創業の精神は「福祉はひとつ」として継承されており、私たちの運動の原点となっています。

南部労福協としましても、労働運動・労働者福祉運動が果たしてきた役割を認識・理解し、「福祉はひとつ」という原点に立ち返り、職場・地域でこれら運動を担うべき次代のリーダーの育成に取り組みます。

- ④開催目的

これまでの運動の成果を踏まえ、新しい労働者福祉運動の構築にむけて、労働運動・労働者福祉運動の理念・歴史の伝承者(講師・リーダー)として、リーダーシップを発揮し職場・地域で労働者福祉運動の新たな創造を担うリーダーの育成を図ることを目的とします。

■連合熊本・事業団体に対しまして、次代を担う世代の参加要請を行いますので、ご協力宜しくお願いいたします。

【4】県労協活動コーナー

第12回（第57回）通常総会について

日時 2023年5月24日（水）14時00分～

場所 熊本県労働者福祉会館大会議室

2022年度の総括・収支決算と2023年度の活動方針・予算案について協議を行います。

【5】雑学（トリビア）コーナー

母の日（5月第2日曜日 記念日）

日頃の母の苦勞を労り、母への感謝を表す日。英語表記は「Mother's Day」。日本やアメリカでは5月の第2日曜日に祝うが、その起源は世界中で様々であり日付も異なる。



1907年（明治40年）5月12日、アメリカ人のアンナ・ジャービスが亡き母親を偲び、母が日曜学校の教師をしていた教会で記念会を行い、母が好きだった白いカーネーションを贈った。これが日本やアメリカでの「母の日」の起源とされている。

アンナの母への想いに感動した人々は、母をおぼえる日の大切さを認識し、1908年（明治41年）5月10日に同教会に470人の生徒と母親たちが集まり最初の「母の日」を祝った。その後、1914年（大正3年）に「母の日」はアメリカの記念日になり、5月の第2日曜日と定められた。

日本では、1913年（大正2年）に青山学院で、母の日礼拝が行われた。アンナから青山学院にメッセージが届き、当時青山学院にいた女性宣教師たちの熱心な働きかけで、日本で「母の日」が定着していくきっかけとなったとされている。その後、1949年（昭和24年）頃からアメリカに倣って5月の第2日曜日に行われるようになった。

カーネーションは母性愛のシンボルとなり、この日にはカーネーションなどの花を贈るのが一般的となっている。

関連する記念日として、6月の第3日曜日は「父の日」となっている。「母の日」に贈る花がカーネーションなのに対して、「父の日」に贈る花は主にバラである。

出典：雑学ネタ帳

【6】福祉事業団体の活動

以下のURLからご覧ください。

(1) 九州労働金庫熊本県本部

<https://kyusyu-rokin.com>

(2) こくみん共済 coop 熊本推進本部

<https://www.zenrosai.coop/contact/zenkoku/kumamoto.html>

(3) ユニオントラベル熊本

<http://unitora.com/>

(4) 秋津レークタウンクリニック

<https://akitsu-laketown.jimdofree.com/>

(5) ライフサポートセンターくまもと

<http://blog.rofuku.net/kumamoto-lsc/>

福祉のことなら何でもご相談ください。あなたの悩みに応えます。事業団体・産別の専門家が、労働問題他、福祉全般に亘って相談に応じます。

(6) 熊本県労働者福祉会館

<http://www.roukan.org/>

いつでも、だれでも利用できる会議室があります。会議、研修、講習会などでのご利用お待ちしております。

【7】事務局からひと言

■「**地下水枯渇に懸念**」と5月4日の熊日に掲載されていました。世界でペットボトルに入った水の市場規模が2030年までに現在の2倍近くに増え、地下水の枯渇やプラスチックごみ問題などを悪化させる懸念があるそうです。水を買えない貧しい人との間で不平等を拡大させ飲み水に関する持続可能な開発目標（SDGs 6 安全な水とトイレを世界中に）達成の障壁になるとの報告もあっているようです。世界では、9億人が今でも屋外排泄を続けているそうです。世界の人口の40%が水不足の影響を受けている状況です。世界でもまれにみる豊富な地下水がある熊本でも近い将来水不足に見舞われるかもしれません。日頃から節水に心掛ける日常生活が必要ではないかと思えます。みなさん如何ですが、**歯磨きや洗顔のとき水を出しっぱなしにしていませんか。**

■「**深刻な飢餓 2億5800万人**」との掲載もありました。ロシアのウクライナ侵攻による食料価格の上昇も影響し過去最多の数となっています。紛争、経済の悪化、自然災害により危機に直面しています。日本も防衛力の増強に係る予算は、国民が知らないところでいち早く決まります。もし、戦争に巻き込まれるようなことになれば、外国から食料の輸入は望めません。食料自給率38%の日本。先進国最低です。エネルギー、食料を輸入に頼り、超高齢化社会の日本が戦争に巻き込まれたら・・・資源に乏しい国は、巻き込まれないための方策を考えたほうがいいのではないかと思います。どうする日本 どうする国民

■**G7 広島サミット**は、2023年5月19日から21日に広島で開催されます。参加国であるフランス・アメリカ・イギリス・ドイツ・日本・イタリア・カナダの7か国と欧州理事会議長と欧州委員会委員長も参加し世界経済、地域情勢、様々な地球規模課題について意見を交わされるようです。被爆地での開催となりますが、原爆による破壊から目覚ましい復興を遂げた広島で、G7の首脳が集い対話することは大きな意味を持ち、世界中に力強い平和のメッセージを発信できる最高の機会だと思います。**地球から紛争・戦争が無くなることを願い、「つながる・寄り添**

う・支え合う 世界をめざそう。」そのような現実が近い将来訪れるような宣言もあればと願います。

〈県労福協からのお知らせ〉

- 「借りてる方も これから借りる方も もう悩まないで奨学金返済 Q&A」
中央労福協が標記の冊子を発行しました。返済に困っているあなたへ法律のプロが寄り添って解説している冊子になっています。是非読んでみたいという方は、県労福協にご連絡ください。また、中央労福協 HP からダウンロードできます。サイトがわからない場合も、県労福協にご連絡ください。

いまこそ 労福協の力を

「持続可能な社会をめざして」「誰ひとり取り残さない社会をめざして」そのような
思いでふれあい通信を継続していくことができれば・・・

ご意見、ご要望をお聞かせください。

一般社団法人 熊本県労働者福祉協議会

〒862-0976

熊本県熊本市中央区九品寺 1 丁目 17-9

TEL 096-375-6029 FAX 096-375-6030

E-mail rofuku@lime.ocn.ne.jp